

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502355		
法人名	株式会社 ネイチャー		
事業所名	グループホーム なつれ		
所在地	札幌市豊平区福住2条10丁目14-1		
自己評価作成日	平成22年12月3日	評価結果市町村受理日	平成23年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>火災等緊急な事態が発生した際には、地域住民の協力が必要となる。近所に挨拶に行っている。特にホームでイベントがある時は、利用者さんと一緒に作った昼食等を持参している。利用者さんが不穏になりそれが例え継続してもできるだけ薬には頼らず対応していくようにしている。</p>
---

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502355&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502355&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年12月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームなつれ」は静かな住宅街に位置した民家改造型の建物である。管理者が自己評価・外部評価での取り組みに熱心で、利用者の笑顔を増やすために職員のスキルアップに努力している。2ヶ月に1度、定期的に運営推進会議を実施し、行政や町内会役員、民生委員など多くの参加があり、特に家族の参加が多く毎回8割以上の方々に参加してもらっている。会議では全家族に必ず発言してもらうように工夫し、運営に関する意見や要望を多数出してもらっている。また、運営に関する職員の意見も活発であり、毎月のユニット会議では職員が順番に議長と書記を担当するようになっており、管理者は事前に職員と管理者の意見を集約して会議のテーマを決め、式次第を作成し議長に渡している。会議は通常3時間にも渡って行われているが、意見交換が活発なために毎回時間が不足気味なほどである。利用者の外出支援にも熱心で、暖かい時期には利用者全員が散歩できるように支援している。買い物にも少人数のグループに分けて時々出かけている。年間行事での初詣、花見、札幌ドーム見学、盆踊り、花火大会、紅葉狩りなどの外出を楽しんでいるが、冬場でも車でウィンドウショッピングを楽しみ、受診時なども含めて外気に触れる機会を多く作っている。</p>
---

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は額に入れホームの玄関や居間に掲示してある。又「笑顔と挨拶で地域に寄りそい明るい生活」という事業所理念をつくり、常に実践するよう努めている。	前回の外部評価で、理念に地域との関わりを盛り込むことが提案されたことから、全職員で話し合い、新規の事業所理念を作り上げたところである。今後は新人職員にも事業所理念について意識付けしていく予定である。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、ホームとして総会に出席し利用者も盆踊りなどの地域の行事に参加している。	町内の盆踊りに参加したり子供みこしを見学させてもらっている。年末には餅つきに参加する予定である。敷地のスペースが狭いことから、現在は事業所の行事に地域の方を招待していないが、夏祭りの際には近所に挨拶し、お赤飯を配っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の行事に参加する。もちつき、夏祭り、子供みこし見学等		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、地域包括支援センター職員、利用者家族、町内会役員の方の参加がある。運営報告、サービス評価、行事等意見交換しサービス向上につなげている。	運営推進会議には、町内会や行政の方、多数の家族が参加し、活発に意見交換をしている。また時には、協力医療機関の医師に参加をお願いして情報提供してもらっている。議事録は全家族に送っている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加しており、情報提供してもらっている。管理者会議等にも出席したり、保護課担当職員の来訪もある。その他随時市や区の担当者に相談している。	管理者は市・区の管理者会議に毎回出席している他、市の担当者に困ったことや不明なことがあれば相談している。最近では建築基準に関したことで情報をもらっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠し、職員にはマニュアルを常に閲覧できるようにしてある。	地域包括センターの職員にお願いして身体拘束に関する資料を提供してもらい、マニュアルを作成して新人教育にも活用している。3ヶ月に1度の法人全体の研修でも身体拘束に関する学習をしている。玄関を入れて直ぐのドア上部には止め棒が差し込まれているが、内側から取り外しが可能である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員にはマニュアルを常に閲覧出来るようにしてある。		

グループホーム なつれ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員にはマニュアルを常に閲覧出来るようにしてある。家族には同じ者をコピーしお渡ししている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書の説明を行い、十分納得していただいている。不安、疑問にもその都度対応している。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に8割以上の家族の参加を得て意見を反映している。ホーム便りには個人毎の近況報告も添付している。	運営推進会議には多くの家族が出席しており、全員に発言する機会を作っている。また、家族が訪問する際にも話を聞き、意見や要望を聞いている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議にて職員間で意見交換を行っている。	毎月のユニット会議では職員が順番に議長と書記を担当するようになっており、管理者は事前に職員と管理者の意見を集約して会議のテーマを決め、議長に渡している。会議は通常3時間に渡って行われているが、活発な意見交換のため毎回時間が不足気味である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者担当制を用いて、責任ややりがいを感じて関わってもらっている。管理者は普段から職員個々の意見を聴いている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番、交代で外部研修に参加させており、2ヶ月に1度の社内研修は全員参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム管理者会議に出席しており、同業者と交流する機会を持っている。		

グループホーム なつれ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にできるだけ見学してもらおうか、管理者が訪問し事前に馴染みの関係を築くよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>面談を通してこれまでの経緯を傾聴し、家族の要望や心情を伺っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談時の情報と観察し得た情報を分析し見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事に参加して頂くことでお互いに感謝の気持ちを持つことが出来ている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>来訪時に日々の様子を伝え、情報共有に努めている。受診対応は協力してもらおうと一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族、知人等の面会を勧め、家族との外出、外泊の機会を続けながら馴染みの人や場所との関係がとぎれないよう支援している。</p>	<p>お墓参りや親族のお見舞いなど、通常は家族に対応してもらっているが、お孫さんの結婚式に管理者が車で送迎したこともある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>意志疎通の困難な利用者が孤立しない様、言い争いがあった場合には迅速に対応する事ができている。</p>		

グループホーム なつれ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された場合は、面会等するようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の話をよく聴いたり、行動観察の中から、希望、意向を把握するように努めている。困難な場合は、表情やしぐさ、行動等で把握するようにつとめている。	センター方式のアセスメントなどの記録をもとに、家族からの情報も活用して職員間で共有し、一人ひとりの思いや意向を把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時面談等で本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、記録で職員が情報共有し把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いや意向、健康状態、暮らしの現状把握などを分析したアセスメントに基づき計画策定している。家族の意向、職員意見等を反映し本人本位となる計画を作成している。	利用開始時から1ヶ月以内に暫定の介護計画を作成し、その後1～2ヶ月以内に見直しして本計画を作成している。定期見直しは、担当者が中心となって他の職員の意見を集約し、計画作成担当者と協力のもとに3ヶ月から6ヶ月で行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制加算を活かし入院回避等の負担軽減、本人や家族状況によっては、受診対応、買い物同行等ニーズに応じた柔軟な支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、民生委員、消防等と協力しながら支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、整形、泌尿器科、歯科の往診や訪問看護による健康管理支援を整備し、職員は診療や観察記録内容を把握している。家族対応した受診は結果を聞き、それ以外は受診対応している。	協力医療機関が定期・不定期に訪問診療をし、受診内容は「医師・指示簿」で報告されている。従来のかかりつけ医の受診も自由であるが、家族対応でお願いしている。家族から聞き取った医療情報の記録は整備中である。	

グループホーム なつれ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来所し健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、介護添書にて情報提供や相談を行い、主治医とも情報共有し、連携を取って早期退院に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末について、家族の考え方を聞いている。	利用開始時に「医療連携体制」の文書を本人・家族に示し、重度化した場合の指針や方針を説明して署名捺印をもらっている。重度化した場合はその都度確認し、再度詳しく説明を行っている。現状では事業所での看取りは行わず、医療機関その他のサービスに移行している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し閲覧出来るようにしてある。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定した避難訓練を実施している。入居者、近隣協力者、家族見学、消防署の参加を得て行っている。	消防署の協力を得て年2回、夜間想定した避難訓練を行っている。訓練には、近隣に同法人の高齢者住宅があるので参加してもらっている。救急救命訓練も定期的に行っている。災害時に備えた備品などはまだ準備していない。	運営推進会議のメンバーに、会議を通じて避難訓練に参加してもらえるようお願いしていくことを期待したい。また備品などの準備も検討されることを期待したい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への言葉かけや対応の仕方、プライバシー保護等に気をつけている。個人記録や面会簿の保管もきをつけている。	利用者への名前呼びかけは基本的に「名字」に「さん」付けであり、制止する言葉には注意するようユニット会議でも確認しているが、時々直接的な制止の言葉や周囲に聞こえる声でトイレ誘導する場面もある。また、リビングで利用者の目に付く場所に個人ファイルが保管されている。	利用者の尊厳とプライバシーを大切にす観点から、目立たずさり気ない言葉かけや対応に配慮していく取り組みに期待したい。また個人ファイルの保管場所には目立たぬよう布で目隠しをしたり、ファイルの背表紙に書かれた個人名をイニシャル表示するなどの取り組みに期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望を聴いたり、読み取ったりし、自己決定できるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムに配慮しながら、起床、入浴、食事にかかる時間等状態にあわせて支援している。受診日は食事時間をずらすなど工夫している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。敬老会は正装し、お化粧品をお手伝いしている。		

グループホーム なつれ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている。外出先での飲水や行事食等で食事に変化をつけている。	職員が献立を作成し、利用者の誕生日には「ちらし寿司」を作り、祝日には赤飯や手作りのオードブルを食卓に載せて食事を楽しめるように工夫している。おやつを利用者と一緒に作る時もある。利用者の状態に応じて調理の下拵えや食事の準備、後片付けを手伝ってもらい、職員も食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定し、食事、水分量をチェックシートに記入して把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、舌ブラッシングもしている。毎日ポリデント洗浄もしている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意がなく、夜間オムツ使用している方でも、日中はリハビリ着用しトイレ誘導している。チェックシートに記入している。	排泄チェックシートでパターンを把握し、声かけやトイレに誘導し介助している。利用開始時には全介助の状態であったが薬の調節で自力でトイレに行くまで改善した利用者や、リハビリパンツを利用していたが職員の支援のもとに布パンツに変わった利用者もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックや牛乳の提供時間の工夫をしている。散歩(廊下歩行)や体操を毎日行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回午後から提供し、その日の利用者の状態や外出の状況によって臨機応変に対応している。	日曜日以外は午後から入浴できる態勢を整えている。その日の状況や状態に応じて、週2回の入浴を実施している。事情によっては、シャワー浴、足浴、清拭なども行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や睡眠については、自由にさせていただいて、夜、寝付くまで側で見守り等も行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を保管している。確薬出来るように介助し変更になった時は、医師指示簿に記入し、口頭でも申し送りしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の暮らしの中で、ひとりひとりにあった楽しみや役割を見つけて、得意分野で個別の力を発揮してもらえるよう支援している。		

グループホーム なつれ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>夏場晴天日の散歩、買い物など少人数に分かれて出掛けている。札幌ドームや町内盆踊り、紅葉狩り等外出レクは毎月計画している。</p>	<p>暖かい時期には交代で利用者の全員が散歩できるように支援している。買い物も少人数で時々出かけている。年間計画での初詣、花見、札幌ドーム見学、盆踊り、花火大会、紅葉狩りなどの外出行事を楽しんでいる。冬場は車でウィンドウショッピングを楽しみ、受診時なども含めて外気に触れる機会がある。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>家族からお小遣いを預かっている方もいる。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族から来た手紙はお渡ししている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者、職員が全員くつろげる空間になっている。季節毎の壁かざりや庭木の自然等で四季を感じることができる。オルゴールや祭り、クリスマスソング等季節にあわせたBGMを流しリラックスできる。</p>	<p>民家を改造した共用空間は家庭的な造りである。1階は3居室の他、生活の場になっており、中2階と3階は居室になっている。3階への階段に昇降機を設置し利用者は自力で操作している。壁にはクリスマスの飾り付け、手作りの暦、当月の計画表が掲示されている。居間の窓から陽が入り暖かくて心地よい環境になっている。また、加湿器や洗濯物で湿度を調整している。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れたものや、馴染みのものを持ち込んでいる。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れたものや、馴染みのものを持ち込んでいる。</p>	<p>改造型の居室は、クローゼット、押入れ、備え付け飾り棚、居室の広さなどそれぞれ違いがある。家具の他に鏡台や小物などが持ち込まれ、壁には家族の写真や装飾品が飾っており、過ごしやすいように工夫されている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ソファの席を固定せず自由に座ってもらっている。</p>		

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム なつれ

作成日：平成 23年 1月 14日

市町村届出日：平成 23年 1月 17日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	町内会の方々の避難訓練参加が得られていない。	町内会の方々に避難訓練に参加してもらう。	日程調整し、運営推進会議等通じ、避難訓練に参加してもらえるようお願いしていく。	12ヶ月
2	36	直接的な制止の言葉や周囲に聞こえる声でトイレ誘導したり、リビングで利用者の目に付く場所に個人ファイルが保管されている。	利用者の尊厳とプライバシーを大切にする観点から、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮していく。	個人ファイルの背表紙に書かれた個人名をイニシャル表示にする。トイレやおしっこ等直接排泄に結びつく言葉使用は禁止し、職員同士の連絡等は個人名やトイレを番号で表す。	1ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。